

前年度（25,636件）と比べて7%減少した。また、平成24年度の虐待判断事例件数は、養介護施設従事者等によるものが150件、養護者によるものが15,202件となっている。養護者による虐待の種別（複数回答）は、身体的虐待が65.0%で最も多く、次いで心理的虐待（40.4%）、経済的虐待（23.5%）、介護等放棄（23.4%）となっている。

養護者による虐待を受けている高齢者の属性を見てみると、女性が約8割を占めており、年齢階級別では「80～84歳」が24.6%と最も多い。また、虐待を受けている高齢者のうち、約7割が要介護認定を受けており、認知症である者（要介護認定者における認知症日常生活自立度「Ⅱ以上」の者）が、被虐待高齢者全体の74.1%を占めた。また、虐待の加害者は、「息

子」が41.6%と最も多く、次いで、「夫」18.3%、「娘」16.1%となっている（図1-2-6-10）。

#### (4) 高齢者による犯罪

高齢者の刑法犯の検挙人員は、平成24（2012）年は48,544人と前年に比べほぼ横ばいであったものの、14（2002）年と比較すると、検挙人員では約2倍、犯罪者率では約1.5倍となっている。また、24年における高齢者の刑法犯検挙人員の包括罪種別構成比をみると、窃盗犯が73.5%と7割を超えている（図1-2-6-11）。

#### (5) 高齢者の日常生活

##### ア 生きがいを感じている人は約8割

60歳以上の高齢者が生きがいをどの程度感

図1-2-6-9 住宅火災における死者数

